

2010年(平成22年)9月8日(水曜日)

2010年(平成22年)9月8日(水曜日)

# 「ビオルネ」再生法申請

## 枚方の3セク 商業施設不振、負債26億円

枚方市の京阪枚方市駅前(岡本町)が6日、民事再生法のある商業施設「ビオルネ」の運営などを行う第3セク同日付で監督命令を受け、再生ター「ビオルネ」(枚方市)の再生計画案を策定する。

支社によると、負債総額は約26億6400万円。今後営業を継続しながら、再生計画案を策定する。

同支社や市などによると、ビオルネは1977年、同駅前再開発事業を目的に、市や金融機関などが出資し「枚方岡本町都市開発」として設立。90年に商業施設「ビオルネ」をオープンさせ、大規模小売店舗を誘致し、2004年3月期には約5億1400万円の売り

上げがあった。しかし、その後近くに大規模ショッピングモールがオープンしたことなどで入店客数が伸び悩み、テナントも撤退して売り上げが減少。建設費用などのための借入金を返済できるメドが立たなくなるなど、財務状況が悪化していた。

### 民事再生法の適用申請

■商業施設を運営する第3セクター「ビオルネ」(大阪府枚方市)が6日、大阪地裁に民事再生法の適用を申請した。負債額は申請弁護人によると26億円。ビオルネは枚方市や京阪電気鉄道、地元金融機関などの出資で設立し、1990年に商業施設を開業した。京阪枚方市駅前の好立地を生かして服飾関連や飲食など多くの専門店を誘致してきた。だが、近年は郊外で大型の商業施設が増え、売り上げが低下。施設の老朽化に伴う改修費用もかさみ、財務体質が悪化していた。

新聞 寄附 読者

2010年(平成22年)9月8日 水曜日

## 商業施設三セク 再生法適用申請

枚方、負債26億円

京阪枚方市駅前で商業施設を運営する枚方市の第3セクター「ビオルネ」(同市岡本町、藤田二郎社長)が、大阪地裁に民事再生法の適用を申請し、6日付で保全命令を受けた。負債額は26億6400万円。同施設の営業は継続されるという。帝国データバン

ク大阪支社などによると、同社は1977年5月、枚方市駅前の再開発事業に伴い、商業施設の運営を目的に設立。資本金3億円で、うち枚方市が1億3500万円を出資した。

2009年3月期の営業利益は5100万円だが、積極的な設備投資による負債が響いたとみられる。同施設の商業スペースは北館6階と地下1階、南館2階部分で、飲食店や衣料品店など計80店舗が入居している。(小池暢)

産経(7F11)

# 枚方市の三セク 再生手続き申請

負債26億円

大阪府枚方市の京阪枚方駅前商業ビルを管理・運営する同市の第三セクタ「ピオルネ」(藤田二郎社長)が、大阪地裁に民事再生手続き開始を申請し、保全命令を受けていたことが7日、分かった。負債総額は約26億6400万円。入店しているテナントは今後も営業を続けるとい

う。申請は6日付。市や民間の調査会社によると、同社は同駅前の再開発事業を目的に市などが出資し、資本金3億円で昭和52年5月に設立。平成2年に大型スーパーなどが入る商業ビルをオープンさせた。

しかし、19年度に近隣の競合施設との差別化を図る

ことを目的に施設をリニューアルした結果、借入金の金利負担などが経営を圧迫し、財務状況が悪化。テナントの撤退や集客数の減少なども影響し、昨年の売り上げは約4億3800万円にとどまっていた。